

演題:「重症急性膵炎を発症した 64 歳女性一例」

徳之島徳洲会病院 初期研修医
福岡徳洲会病院二年次 明島 直也

抄録：胆石症が既往にあり、胆石性の急性膵炎を発症した 64 歳女性。

来院時血液検査にてアミラーゼの著名な高値を認め、肝胆道系の酸素が上昇していた。腹部造影CT施行し、重症膵炎と診断。胆石嵌頓による膵炎を考え、ERCP施行したが、明らかな胆石は指摘できず。

おそらく落石したと考えられる。膵管ステント留置し、終了。

輸液負荷、抗菌薬投与、蛋白分解酵素阻害薬を投与継続しながら全身管理施行した。

その後は特に増悪なく経過し、経過良好となった。